

第6期川西市地域福祉計画(案)

修正対比表

	項目	パブリックコメント時 ※——: 今回削除となった部分	パブコメ・市議会意見を受けた修正案 ※____: 今回追加となった部分	修正理由
1	【本編 3 ページ】 第 1 章 2 計画の位置づけ	他の計画との関連図	他の計画との関連図 「 <u>地域福祉計画では地域における高齢者・障がい者・児童の福祉その他の福祉に関し、共通して取り組むべき事項を定めています。対象ごとの施策については、各計画において定められています。</u> 」の文言を追記	ご意見を踏まえ、内容をわかりやすくするため、文言を追加しました。
2	【本編 29～32 ページ】 第 2 章 3 アンケート及びワークショップの結果からみる現状	ワークショップの実施結果の概要 各表の項目 よりよくできること ワークショップの実施結果の概要 各表左上の表題 地域づくり	ワークショップの実施結果の概要 各表の項目 よりよくできること(課題) ワークショップの実施結果の概要 各表左上の表題 <u>地域づくりに関する主な意見</u> (※以下、高齢者、障がい者、子どもも同様)	ご意見を踏まえ、内容をわかりやすくするため、文言を追加しました。
3	【本編 40 ページ】 第 3 章 3 基本目標	評価指標 項目 福祉ボランティア数	評価指標 項目 福祉ボランティア数 <u>※兵庫県ボランティア・市民活動災害共済に加入して活動している市民</u>	ご意見を踏まえ、内容をわかりやすくするため、文言を追加しました。

	項目	パブリックコメント時 ※ —— : 今回削除となった部分	パブコメ・市議会意見を受けた修正案 ※ <u> </u> : 今回追加となった部分	修正理由
4	【本編 42 ページ】 第 3 章 3 基本目標	評価指標 項目 自殺者数 方向性↘ 基準値(R4): 36 人、中間目標(R9): 30 人、目標値(R13) 25 人	評価指標 項目 <u>自殺死亡率(人口 10 万人当たり) 方向性↘ 基準値(R4):23.1、中間目標(R9):12.2、目標値(R13):10.0</u> 項目 <u>ゲートキーパー養成講座受講者の延べ人数 方向性↗ 基準値(R4):35 人、中間目標(R9):250 人、目標値(R13):400 人</u>	評価指標を国の自殺総合対策大綱とあわせ「自殺死亡率」に変更し、より高い目標値に修正しました。また、ご意見を踏まえ、評価指標に「ゲートキーパー養成講座受講者の延べ人数」を追加しました。
5	【本編 43 ページ】 第 3 章 4 重点施策	②生きがい就労事業の実施 ～(略)～ このため、高齢者をはじめ、障がい者や生活困窮者等、誰もが役割を持ち、住み慣れた「地域で働く」ことによって「地域で生きがいを持ってともに生きていく」ことをテーマとした「生きがい就労事業」を実施します。	②生きがい就労事業の実施 ～(略)～ このため、高齢者をはじめ、障がい者や <u>生きづらさを抱える人など</u> 、誰もが役割を持ち、住み慣れた「地域で働く」ことによって「地域で生きがいを持ってともに生きていく」ことをテーマとした「生きがい就労事業」を実施します。	ご意見を踏まえ、文言を修正しました。

	項目	パブリックコメント時 ※ —— : 今回削除となった部分	パブコメ・市議会意見を受けた修正案 ※ <u> </u> : 今回追加となった部分	修正理由
6	【本編 75 ページ】 第 4 章 基本目標 3	3. 自殺防止対策の推進(自殺対策計画) ～(略)～ 自殺対策の本質が生きることの支援にあることを改めて確認し、国の自殺総合対策大綱にある「いのちを支える」という理念のもと、各関係機関との横断的な連携により、包括的・継続的な支援を通じて、「誰も自殺に追い込まれることのない社会の実現」をめざします。	3. 自殺防止対策の推進(自殺対策計画) ～(略)～ 自殺対策の本質が生きることの支援にあることを改めて確認し、国の自殺総合対策大綱にある「いのちを支える」という理念のもと、最終的には自殺者数がゼロとなるよう、各関係機関との横断的な連携により、包括的・継続的な支援を通じて、「誰も自殺に追い込まれることのない社会の実現」をめざします。	ご意見を踏まえ、文言を追加しました。
7	【本編 80 ページ】 第 4 章 基本目標 3	(5)子どもが安心して生活できる環境づくり ～(略)～ 今後は、様々な機会を通じて、子どもに命の大切さを伝え、SOSを出しやすい環境や、SOSを出した友人等を受け止めてもらえる環境づくりに取り組みます。また、教職員への研修や情報提供を進めるとともに、相談やアドバイス等、子どもや保護者に対するアプローチも行っていきます。	(5)子どもが安心して生活できる環境づくり ～(略)～ 今後も、様々な機会を通じて、子どもに命の大切さを伝え、SOSを出しやすい環境や、SOSを出した友人等を受け止めてもらえる環境づくりに取り組みます。また、教職員への研修や情報提供を進めるとともに、相談やアドバイス等、子どもや保護者に対するアプローチも行っていきます。	ご意見を踏まえ、文言を修正しました。